

Energy efficiency NEWS FLASH

(作成: SEAJ エネルギー効率利用専門委員会 独自の見解を含んでおり、内容を保証するものではありません。参考情報としてご利用下さい)

1) 件名 第5回 環境に関する意見交換会を開催

2) 内容

ご参加頂いた方々より『有益な情報を得ることができた』、『他社の取り組みを知ることができた』等、多くのご意見と継続開催のご要望を頂き、第5回目の開催となりました。

今回は嗜好を変えて、グループ討議形式を採用しました。第1部は、事前募集した4つのテーマ毎に会場参加者による少人数グループ討議。第2部ではWeb参加者が加わり、第1部の討議結果発表、質疑、フリーディスカッションを行っております。

<テーマ>

A. 自社の環境目標達成に向けての考え方

- ・環境配慮の数値的なロードマップを策定・実現する上で苦慮している点
- ・Scope3 Category11 情報入手方法や具体的アプローチ
- ・原単位の考え方 (CO2換算、Wafer1枚あたり、売上総利益)

B. 設備活用と工場の省エネ活動の進め方

- ・自家消費型 (売電でない) 太陽光発電の活用方法
- ・具体的な省エネアイテム

C. 国によって調達難易度異なる工場の運営と全体目標設定

国によって事情が異なる中で企業グループとしてどうまとめるか

例) 日本再エネが高価だが中国は安価であり、ドイツは再エネ比率高いなど。

D. 環境情報開示について

環境関連の開示の苦労や各種認定を行う事で企業が得られる恩恵とは

例) SBT認定のメリット/デメリット

SEAJ 会員企業各社より、環境関連業務に携わる実務担当者を中心に40名 (19社:対面23名 / WEB17名) が参加され、自社で抱えている課題、悩みを持ち寄り、意見交換・情報共有・解釈の確認等を予定時間いっぱいまで、活発な議論が行われました。

3) SEAJ コメント

対面・少人数という近い距離感でのグループ討議とすることで、初めて参加された方々も発言しやすい雰囲気となり、積極的な意見交換・熱心な議論が展開され、時間が足りないとの意見が出る程、熱い時間となりました。参加された会員企業の方々には、繋がりを築け、情報交換する場を提供出来ました。

Webにて参加頂いた方々も発言しやすい雰囲気でのディスカッションを行いたいという反省点があり、次回以降に開催方法の工夫を行っていきます。

『競争領域ではなく、本音ベースに近い討議が出来た』と嬉しいお言葉を多く頂き、活動を継続します。手探りの環境対応を自社内だけで悩むのではなく、『環境に関する意見交換会』を『検討・議論する場』と

位置付け、共通の悩み、答えの出ない課題を共有する事にも意義があると考えます。

意見交換会後に行われる立食パーティー形式の交流会も開催しており、対面参加することで肩の力を抜いた雰囲気、本音の情報交換、各社の横の繋がりも作れます。

この本音トークの意見交換会とは別に、毎年 3 月開催が恒例の「カーボンニュートラルシンポジウム」では SEAJ 会員企業だけでなく、異種業種の参加者と講演者交えた討論会に重きを置いております。是非両方に参加して日頃疑問に感じている事や誰にも相談できなかった課題を解決してみたいかでしょうか。

4) 添付情報・資料

無し。議事は非公開の為、是非ご参加下さい。

5) 関連情報 アンケート集計結果まとめ

「情報交換がしやすい、良い企画でした。」など好評を頂きました。

◆「第 1 部 グループ討議」について

参考になった 100%

◆「第 2 部 グループ発表(5分)+質疑応答」について

参考になった 93% / 参考にならなかった 0% / 未回答 7%

6) その他

・エネルギー効率利用専門委員会カーボンニュートラルシンポジウム 2025 年 3 月 14 日(金)

—以上—

Semiconductor Equipment Association of Japan